

# 会議録

令和6年1月24日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和5年度第6回定例会
開催日時	令和5年10月18日(水) 18時30分から20時05分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、荒井茂、小池教之、高井正、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子、辻康一 事務局：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、星野事業係主査
欠席者	高橋浩一
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 審議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和5年度第4回定例会会議録(案)について(資料1)</li> <li>(2) 令和5年度第5回定例会会議録(案)について</li> <li>(3) 令和4年度公民館事業評価について(資料2)</li> </ol> </li> <li>2 主催事業について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料3)</li> <li>(2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料4)</li> </ol> </li> <li>3 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行政報告</li> <li>(2) 公民館だより編集室報告</li> <li>(3) 西東京市教育計画策定懇談会報告</li> <li>(4) 西東京市図書館計画策定懇談会</li> <li>(5) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告</li> </ol> </li> <li>4 事務連絡及び情報交換             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修会について</li> <li>(2) 令和5年度第1回利用者懇談会について</li> <li>(3) 令和5年度第7回定例会の開催について</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> </ol>
会議資料の名称	<b>【配布資料】</b> 資料1 令和5年度第4回定例会会議録(案) 資料2 令和4年度公民館事業評価表(案) 資料3 令和5年度公民館主催事業報告書 資料4 令和5年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(1名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<b>1 審議事項</b> <b>(1) 令和5年度第4回定例会会議録(案)について(資料1)</b> <b>● 令和5年度第4回定例会会議録(案)について承認</b>  <b>(2) 令和5年度第5回定例会会議録(案)について</b> <b>● 令和5年度第5回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し1週間以内をめどに修正意見を事務局に送ることとする。</b>  <b>(3) 令和4年度公民館事業評価について(資料2)</b> <b>● 令和4年度公民館事業評価について承認</b>	

## 2 主催事業について

### (1) 令和5年度公民館主催事業報告について（資料3）

#### ○A委員

思春期の子どもに向き合うための講座「和のこころに学ぶ 親と子のコミュニケーション」（ひばりが丘）について、ふり返りの会の様子を教えていただきたい。

地域課題を考える講座「ほくっとネットの誕生と北東部地域の未来」（保谷駅前）について、担当者の考察・課題欄のコメントを読むと、利用者懇談会をきっかけにして、講座への参加を募るといった発想があると感じる。大半の人が賛同するよいテーマの事業であったとしても、緊張感をもった方がよい。参加は自由であり、押しつけることはできない。公民館の運営や来年度事業について話し合う利用者懇談会に集まった人たちに対して、スライド式にこの講座に参加してもらおうという意図があり、そのような構成になっているが、担当者自身がその問題性を自覚していない。本来、誘導してはいけない、講座のPRをすることはよいが、そのままその講座に参加するのが当然とする構成はよくない。どんなによいテーマの講座であっても、その緊張感を持っていないといけない。館の中で話し合ってもらいたい。

#### ○事業係長

思春期の子どもに向き合うための講座（ひばりが丘）について、講座の中で行ったグループワークの効果で、参加者間の関係形成が図られ、濃い話し合いが行われた。6、7月に全4回の講座を行った後、1か月後の9月にふり返りの会を行った。子どもの夏休み期間をはさんだので、子どもが家にいて気づいたことや新たに生じた問題などがあり、参加者の希望から、講師にもZOOMでふり返りの会に参加していただいたところ、深い話し合いができたという報告を担当者から受けている。

#### ○B委員

地域課題を考える講座（保谷駅前）について、やはり公民館から一方的に誘導された感は否めない。事業名に「北東部地域の未来」とあるが、参加者の評価を読んでも、そのことにふれたものはない。ほくっとネットの目標はネットワークをつくっていくことだが、それに関する参加者のコメントもない。わざわざほくっとネットを取り上げたのに、それはどうしてなのか。利用者懇談会とほくっとネットを繋げたことに無理があるのではないか。利用者懇談会、ほくっとネット、どちらも大切なので、それぞれ独立させて単体で実施した方がよかったのではないか。実施しての公民館の印象等を聞かせてほしい。

#### ○分館長(保谷駅前)

利用者懇談会でほくっとネットを取り上げたことは、やはり唐突すぎた感があるし、時間もタイトだった。保谷駅前公民館では、公運審のみなさんと一緒に改めて利用者懇談会をどのように行うかについて考えていこうと話した。

#### ○C委員

先日、北東部がどんな地域か知るために、自転車でもまわってみた。どの地域でも、地域に根ざして人間関係を形成し、中核になるような人がいると思う。地域課題を考える講座のような場を利用者懇談会と一緒にやることには疑問がある。この地域を掘り起こすことに関心のある人が集まることが第一歩ではないかと思う。

#### ○D委員

創作講座「開いて楽しい飛び出すカードをつくろう」（芝久保）について、税金を投入して実施する意味はどこにあるのか。

#### ○公民館長

教育計画策定のために教育委員会が行ったアンケート調査からもわかるが、大半の市民は、公民館は限られた人が利用しているというイメージを持っている。そこで、公民館をより身近に感じてもらうために、「開かれた公民館」を基本方針の一つとして、創作講座のような講座を企画している。そして、サークル化を視野に講座運営を行っている。「つどう・まなぶ・つながる」ことのきっかけとして行う講座である。

#### ○D委員

財政が厳しければ厳しいほど、議会も含めてこのようなことが指摘されると思う。つながりづくりも含めて事業目的を書いていくことが必要だと思う。自分の人生を豊かにしていくため

の趣味的な講座も大切である。

私は税金を投入するのであれば、人権や平和、自治などの視点が絡んでくることが大事だとは思っている。趣味的教養的な事業も人生の充実につながるので、とても大切。料理教室であれば一品を独り暮らしの高齢者へ届ける、生け花の講座であれば花を一輪、高齢者に届けるなど、人権、自治、平和、自律という視点を持てば、何を取り上げてよいと思うし、つながりづくりのきっかけになると思う。

○A委員

私は、趣味的な事業を人権や社会的な価値に無理矢理結びつける必要はないと思っている。いつも同じ趣味、芸術分野を取り上げるのではなく、その地域で（西東京市で）どのような文化活動がされているかを把握し、足りないところがあればそれを補い、支えを必要としていれば支える。また、お金をかけてカルチャーセンターに参加することができない人もいると思うが、そういう人にきっかけを提供する。市民が文化活動を行う機会を保障すること自体が大切であり、無理に社会的価値に結びつけなくても、地域全体の文化活動・学習活動のバランスを考えて事業を企画していればよいと思う。もちろん、人権、自治、平和等を取り上げる事業は大切であるが、趣味的文化的事業をそれに結びつける必要はないと考える。

(2) 令和5年度公民館主催事業計画について（資料4）

○E委員

事業計画書の書き方について。田無公民館の事業計画書の事業目的・事業内容欄は、いつも教育計画の基本方針を中心にして書かれている。私たち公運審委員は、教育計画をふまえて公民館事業が企画・実施されることは承知しており、それを前提に事業計画書を読んでいるので、この欄には教育計画の基本方針ではなく、担当者の具体的な企画意図や思いが書かれていた方がわかりやすい。

○分館長(田無)

田無公民館では、教育計画をふまえて企画していることがわかるように、かつ、端的に事業目的と内容がわかるように書いている。

○公民館長

委員のご指摘のとおり。事業目的と事業内容がよりわかりやすいように、変えていきたい。

○A委員

小学生親子夕方講座“日本の伝統文化「茶の湯」を学ぶ”について、参加者が負担する材料費4千円は高いと思う。また、一般の茶道教室との違いはどこにあるのか。公民館で茶道を取り上げる意図は何か。公民館事業として、どのような工夫がされているのか。そのようなことが事業目的・事業内容欄に書かれているとわかるのだが…。

○分館長(田無)

材料費は、親子二人分の和菓子代、抹茶代、テキスト代。担当者は価格を抑えるために、より安価な和菓子や小学生が飲みやすい抹茶を探すなど努力したが、二人分なので、この金額になった。親子がコミュニケーションをとりながら、日本の伝統文化に親しむということで企画した講座である。

○A委員

4千円という金額は一般的な感覚だと高いと思うが、これまでも同じくらいの金額の参加費を求める事業を行っているのか。テキストは必要な部分を印刷して配るなど、負担額を下がる工夫はできないか。現在の企画だと、4千円払わないと、払えないと講座に参加できない。どうすれば、お金をかけずに、茶道を実際に体験してもらえるか、工夫する必要があるのではないか。

○公民館長

委員ご指摘のとおり、社会教育施設とカルチャーセンターの違いを明確にしなければいけないと思う。公民館は無差別平等に受けられる社会教育の場であり、この講座でも必要最低限の実費負担ということで参加費を設定したが、工夫の余地はある。公民館全職員が集まる6館会議でも情報共有したい。

○E委員

やはり、参加費4千円は一般的に高いと感じられると思う。毎回、必ずお菓子が必要なのか。毎回、茶席用の和菓子が必要なのか。参加費を下げるために、工夫できることがあるのではないか。

○F委員

学校でも以前茶道教室を行っていたが、本物を教えたいと考えたので、生菓子などに費用がかかった。子どもたちは本物に触れることで、感動したり、心が動いたりする。安易に費用を下げればよいものでもないと思う。

○A委員

学校では参加費を徴収したのか。

○F委員

学校では、ボランティアで茶道教室をやってもらったので、お茶代は不要で、生菓子代300円のみ徴収した。

○A委員

本物をというのもわかるが、公民館は講師料が出ているので、テキスト代が高いのか。本物を味合わせるのも大事だが、様々な流派もあるが茶道の価値を改めて工夫してみてもいいのではないか。

○D委員

本物に触れることはとても大事だと思う。私が担当するとしたら毎回生菓子を提供するのではなく、5回目は本番として行うという設定をして、それを目指して練習することとする。1～4回目は普通のお菓子で、5回目は近隣の有名なお菓子を出す。そんな工夫があってもいいと思う。

○G委員

茶道の文化に触れることも大事だが、目的に親子とのコミュニケーションも掲げられている。全5回の連続講座だが、親子そろって5回継続して参加するのは大変ではないか。5回継続して深めていく構成だが、1回目の時点でちょっと違うなと思うと、しんどいのではないか。同じ人を対象にして全5回の講座として実施するのではなく、例えば、毎回、異なる10組を対象に、5回行い、合わせて50組の親子が参加できるという方法もある。回数も、本当に5回でよいのかということもある。内容も、5回かけて茶道そのものを深めていくという方法もあるが、それは、一般の茶道教室でも行われている。興味、関心をもってもらうという意味では、しつらいの説明をするとか、盆栽とか、総合芸術として茶道に関心を持ってもらう方法もある。また、最後に親から子へ、子から親へとあるが、それぞれの回で親子のコミュニケーションが深まる工夫があればいいと思う。

○E委員

インクルーシブな社会をめざす講座「みんなのボッチャ大会」（谷戸）について、質問がある。ボッチャ大会に向けて、実行委員が準備していくが、大会への参加はチーム単位なのか。実行委員会にはいろいろな方が参加しているが。

○分館長(谷戸)

一人での参加も可能で、その場合は他の参加者とグループを作って、大会に参加していただく。

○E委員

準備会に参加したみなさんが、チームとして参加して大会を行うというイメージでよいのか。ボッチャという競技は、個人で参加申込をすることもあるのか。

○分館長(谷戸)

パラリンピックの影響もあって、今、ボッチャはかなり人気があるスポーツで、市内でもボッチャの団体が増えてきていると聞いている。

○D委員

事業名が「みんなのボッチャ大会」なので、大会を行う事業かと思ったが、実行委員会が中心となって準備するという内容で、どちらが事業なのかわからなかった。個人で大会に参加したい人もいるだろうし、チームとして集団で大会に参加したいというニーズもあると思う。運営する人自体がつながっていくために実行委員会を作って準備していくことになっていて、い

ろいろな目的がからんでいて、表現しにくい。市民にはボッチャの大会とした方がわかりやすいが、何が狙いなのかわかりづらい。実行委員会も大会の一環に位置づけるとわかりやすくなるかもしれない。実行委員会を通してつながるなど、大会後についても期待している。

○E委員

小学生もボッチャのことをよく知っている。子どもたちや初めての方を受け入れる準備もしておいていただきたい。

○A委員

実行委員会を作って行う事業で、ひねった企画で面白いと思ったが、みなさんの議論を聞いて、事業名が「みんなのボッチャ大会」ではなく、例えば「みんなで作るボッチャ大会」とした方がイメージが伝わりやすいと思った。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

○公民館長

教育委員会と市議会について報告する。

教育委員会定例会は9月23日に行われたが、特に公民館に関する質疑はなかった。

9月議会では、10月25日から令和4年度予算に関する決算特別委員会があり、公民館に関する質疑は2点あった。一つは公民館だより等の配布に関するルールはあるのかという質問、もう一つは、9月15日に保谷駅前公民館が入っているステアビルで起きた落雷による停電についての質問だった。前者の質問に関しては、議員から、シルバー人材センターに配布委託をしている市報等を、明らかに空き家とわかる家にも投函するのは無駄ではないかという意見が出された。後者の質問は、今回の停電時に、ステアビルが自家発電に切り替わらなかったことに関するものだった。本来、落雷時に瞬電(瞬時停電)すると自家発電に切り替わる設定になっていたが、今回は切り替え装置の不具合により電気がつかなかった。公民館では、ロビー等にランタンを設置したが、暗い箇所もあった。今後、各館で危機管理の徹底を図っていきたい。

#### (2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、10月16日開催の公民館だより編集企画会議について報告。4面発行となる2月1日号一面特集について検討したこと、10月1日号の一面特集で取り上げられたことがきっかけで、公民館で活動する自主サークルがテレビ番組の取材を受けたことが報告された。

#### (3) 西東京市教育計画策定懇談会報告

- 担当委員より、10月10日開催の西東京市教育計画策定懇談会について報告。

#### (4) 西東京市図書館計画策定懇談会

- 担当委員より、西東京市図書館計画策定懇談会の今後の予定について報告。

#### (5) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、9月21日開催の東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会について報告。

### 4 事務連絡及び情報交換

#### (1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修について

- 参加した委員より、9月14日開催の委員部会研修会について報告。

#### (2) 令和5年度第1回利用者懇談会について

- 柳沢公民館及び谷戸公民館の利用者懇談会について、参加した委員から実施内容や感想等を報告。

#### (3) 令和5年度第7回定例会の開催について

日時：令和5年11月15日(水) 午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室

(4) その他